

整形外科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究にかんする倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

また、対象となる患者さんで研究参加を拒否したいと思われた方も、以下の「問い合わせ先」までご連絡下さい。その際には、研究の対象とはしないように致します。

〔研究課題名〕 静脈路のない指尖部再接着において医療用ヒルを積極的に用いた瀉血療法の治療成績

〔研究機関〕 帯広厚生病院整形外科

〔研究責任者〕 本宮真（帯広厚生病院リハビリテーション科部長、整形外科、手外科センター長）

〔研究の目的〕 指尖部切断症例に対する再接着術は、切断された指をつなぐことができるため、整容的にも機能的にも優れた治療法です。しかしながら、指尖部の細い血管吻合が必要であり、特に静脈の吻合は難易度が高く吻合に長時間を要することがしばしばあります。動脈のみつながった切断症例では、術後に瀉血を行いながら静脈の環流路が再生するのを待つ治療法があります。瀉血の方法には、指尖部を切開したり、こすったり、抗凝固の薬剤を点滴したりなど様々な方法が用いられますが、滅菌の環境で育てられた医療用のヒルを用いて瀉血を行う方法が報告されています。しかしながら、医療用ヒルを用いた瀉血療法は、具体的な使用方法についての基準が定められておらず、鬱血の程度に合わせて治療者の経験に基づいて不定期に用いられてきました。

当科では指尖部再接着に対して、積極的に医療用ヒルを用いて瀉血管理を行ってきましたが、近年鬱血の程度にかかわらず8時間ごとに定期的に医療用ヒルを用いる瀉血療法を行う方法を導入し、瀉血手技の標準化を図っております。本研究の目的は、当科において静脈路のない指尖部再接着例において、医療用ヒルを積極的に使用して瀉血管理を行った症例の治療成績を調査することです。

〔研究の方法〕

●対象となる患者さん：2015 年 4 月～2020 年 9 月の間に、当院整形外科にて、指尖部再接着術を施行した完全切断症例の内、術後に瀉血療法を行った 12 例 23 指を対象としております。

●利用するカルテ情報

- ①年齢、性別、病歴情報
- ②切断指の情報・手術・瀉血の内容
- ③切断指の生着率・臨床成績・合併症

〔個人情報の取り扱い〕

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌等で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

〔問い合わせ先〕

JA 北海道厚生連 帯広厚生病院 北海道帯広市西 14 条南 10 丁目 1 番地 電話 0155-65-0101
整形外科 担当医師 本宮真